

小山工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	歴史学
科目基礎情報						
科目番号	0002		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	建築学科		対象学年	4		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	『新日本史 B』、『明解世界史図説 エスカリエ』					
担当教員	酒入 陽子					
到達目標						
1. 歴史を学ぶとは単に「過去を学ぶ」ということではなく、「過去を通じて現代を学ぶ」ということであることを評価できる。 2. 日本の歴史と世界の歴史を関連づけて、多角的・グローバルな視点から熟考できる。 3. 単に歴史上の諸事件を「知る」だけでなく、自分なりに「考える」ことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	歴史を学ぶとは単に「過去を学ぶ」ということではなく、「過去を通じて現代を学ぶ」ということであることを正確に評価できる。		歴史を学ぶとは単に「過去を学ぶ」ということではなく、「過去を通じて現代を学ぶ」ということであることを評価できる。		歴史を学ぶとは単に「過去を学ぶ」ということではなく、「過去を通じて現代を学ぶ」ということであることを評価できない。	
評価項目2	日本の歴史と世界の歴史を関連づけて、多角的・グローバルな視点から正確に熟考できる。		日本の歴史と世界の歴史を関連づけて、多角的・グローバルな視点から熟考できる。		日本の歴史と世界の歴史を関連づけて、多角的・グローバルな視点から熟考できない。	
評価項目3	単に歴史上の諸事件を「知る」だけではなく、自分なりに正確に「考える」ことができる。		単に歴史上の諸事件を「知る」だけではなく、自分なりに「考える」ことができる。		単に歴史上の諸事件を「知る」だけではなく、自分なりに「考える」ことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 ① JABEE (D)						
教育方法等						
概要	日本の前近代の外交と貿易について、現代と比較しながら考察していく。					
授業の進め方・方法	1. 授業方法は、学生によるプレゼンテーションと講義を隔週ごとに行う。 2. 隔週ごとに、講義の内容について小テストをおこなう。					
注意点	定期試験は時間を90分とし、ノート・レジュメ等の持ち込みは不可とする。					
授業計画						
		週	授業内容			週ごとの到達目標
前期	1stQ	1週	前近代の外交と貿易 日本史を世界史から読みなおす			
		2週	プレゼンテーションに関するオリエンテーション 情報リテラシーとリサーチの方法			
		3週	鎖国中の日本の外交と貿易 ① (江戸時代)			
		4週	" ② (江戸時代)			
		5週	徳川家康の外交と貿易 ① (江戸時代初期)			
		6週	" ② (江戸時代初期)			
		7週	近世の外交と貿易 まとめ			
		8週	中間試験			
	2ndQ	9週	戦国時代～織豊期の国際関係 ～後期倭寇			
		10週	豊臣秀吉の外交と貿易 ① (織豊期)			
		11週	" ② (織豊期)			
		12週	鉄砲伝来と大航海時代 ① (戦国期)			
		13週	13. " ② (戦国期)			
		14週	10. 豊臣秀吉の外交と貿易 ① (織豊期)			
		15週	15. 戦国大名の外交と貿易 ② (戦国期)			
		16週	前期定期試験			
後期	3rdQ	1週	鎌倉～室町期の国際関係 ～前期倭寇			
		2週	室町期の外交と貿易～中国との関係① (室町時代)			
		3週	" ② (室町時代)			
		4週	室町期の外交と貿易～朝鮮との関係① (室町時代)			
		5週	" ② (室町時代)			
		6週	室町期の外交と貿易～琉球・アイヌ他① (室町時代)			
		7週	" ② (室町時代)			
		8週	中間試験			
	4thQ	9週	鎌倉期の外交と貿易 ① (鎌倉時代)			
		10週	" ② (鎌倉時代)			
		11週	飛鳥・奈良・平安時代の外交と貿易 ①			
		12週	" ②			
		13週	卑弥呼から倭の五王まで ①			
		14週	" ②			
		15週	前近代の外交と貿易とは まとめ			

		16週	後期定期試験				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週	
基礎的能力	人文・社会科学	社会	地歴	産業活動（農牧業、水産業、鉱工業、商業・サービス業等）などの人間活動の歴史的発展過程または現在の地域的特性、産業などの発展が社会に及ぼした影響について理解できる。	3		
				人間活動と自然環境との関わりや、産業の発展が自然環境に及ぼした影響について、地理的または歴史的観観点から理解できる。	3		
				社会や自然環境に調和した産業発展に向けた現在までの取り組みについて理解できる。	3		
				日本を含む世界の様々な生活文化、民族・宗教などの文化的諸事象について、歴史的または地理的観点から理解できる。	3		
				国家間や国家内で見られる、いわゆる民族問題など、文化的相違に起因する諸問題について、地理的または歴史的観点から理解できる。	3		
				文化の多様性を認識し、互いの文化を尊重することの大切さを理解できる。	3		
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	20	0	0	0	20	100
基礎的能力	60	20	0	0	0	20	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0